# ブロック別の動向

前月と比べたDI値の動き　改善　ほぼ横ばい　悪化

**北海道**

**北海道は、悪化**。卸売業では、深刻な人手不足と賃上げによる人件費上昇に加え、外食需要の落ち込みが重なり、飲食料品関係を中心に売上・採算が悪化した。製造業では、中東情勢悪化の影響により、原材料価格の高騰と調達困難化が重なり、売上が悪化した。自動車・附属品製造業からは、石油由来原料の入手が困難になり、生産遅延やコスト増加を招いている、との声が聞かれた。

**東北**

**東北は、悪化**。サービス業では、中旬の宮城県沖の地震、クマの目撃情報が重なり観光客が減少し、旅館業を中心に売上・採算が悪化した。百貨店からは、「ふくしまデスティネーションキャンペーン」の実施により県外からの訪問客が増え、大型連休中の売上は好調であった、との声が聞かれた。一方、小売業全体では、消費者の節約志向の高まりを受け、生活必需品以外の事業者を中心に売上・採算が悪化した。

**北陸信越**

**北陸信越は、改善**。卸売業では、春先の気温上昇で農作物の生育が順調になり、食料品卸売業者を中心に、売上・採算が改善した。サービス業では、大型連休中にイベントが多く開催され、飲食店を中心に売上・採算が改善した。建設関連事業者からは、石川県の復興関連工事が落ち着きつつある中、民間案件の比重が高まり、収益性が改善している、との声が聞かれた。

**関東**

**関東は、悪化**。小売業では、長引く物価高で消費者１人当たりの購入額が減少し、食品スーパーを中心に採算が悪化した。サービス業でも、燃料費の高騰と部品調達の遅延が重なり、自動車整備業を中心に売上・採算が悪化した。飲食店からは、手袋や包材など石油由来製品の供給不足で原材料費が上昇しているが、頻繁な価格転嫁は顧客離れを招くため難しく、苦しい状況が続いている、という声が聞かれた。

**東海**

**東海は、改善**。小売業では、外出や旅行需要の増加に加え、急激な気温上昇の影響で化粧品販売店における日焼け対策商品の需要が高まるなど、採算が改善した。建設業では、道路や学校などの公共工事の増加が受注を下支えし、売上・採算が改善した。一般工事業者からは、資材確保や仕入価格の上昇への不安がある一方で、既存顧客と例年より密にコミュニケーションを図り、顧客離れを防ぐ努力をしている、という声が聞かれた。

**関西**

**関西は、ほぼ横ばい**。例年より早い猛暑日で衣替え需要が急増し、卸売業では衣料品関連を中心に売上が改善した。一方、製造業では、中東情勢の悪化で、ナフサを原料とする化学繊維の仕入価格上昇に伴い、繊維製品製造業を中心に採算が悪化した。金属製品製造業からは、既存取引先については価格転嫁が比較的可能だが、新規の取引では価格競争が厳しく、全てのコスト転嫁は容易ではない、という声が聞かれた。